副専攻(仏教プラクティスコース)

副専攻について

大学で学ぶ専門分野は、一般に専攻と呼ばれ、通常は所属する学部・学科で一つの専攻を学びます。武蔵野大学では、所属する学部・学科で学ぶ専門分野を主専攻とし、それに加えて異なる種類の専門を学ぶことのできる副専攻を用意しています。
副専攻の選択は必須ではありませんが、主専攻と副専攻を合わせて学ぶことで、将来の活躍の幅を広げることができます。各副専攻の案内をよく確認して履修してください。

副専攻（仏教プラクティスコース）について

このコースでは、建学の精神の根幹をなす仏教を、仏教の学びの両面とされる「学（学問）」と「行（実践）」の二つのアプローチから学びます。このコースの特徴は、仏教の学びを通して、現代社会の直面する様々な課題の解決に、仏教の視座や伝統が一つの有効な役割を果たす可能性を追求することにあります。今日、仏教的なものの見方が世界の思想家・実業家・活動家たちの耳目を集めていることに促されたコース開設とも言えます。
このコースには、専門の重なりが大きいウェルビーイング学科を除く全学科の学生が参加することができます。
指定科目（計12単位以上）を修得した学生に「コース修了証」を大学卒業時に発行します。

育成する人材

「学（学問）」と「行（実践）」の要素をもつ諸科目の学びを通じて、現代社会の直面する諸課題に向き合う「知恵」、及び生きとし生けるものへの「慈悲」をそなえた人材の育成を目的とします。

認定制度

副専攻（仏教プラクティスコース）では、コースカリキュラムの中の特定科目の単位修得などの要件を満たすことで、コースの修了を認定し公式の認定証を発行します。
コースのカリキュラム構成、科目の内容、申し込み、修了認定の要件についての詳しい内容は、「2024年度以降入学生_副専攻(仏教プラクティスコース)_科目一覧」を確認してください。

2024年度以降入学生_副専攻(仏教プラクティスコース)_科目一覧

■副専攻(仏教プラクティスコース)で育成する人材
「学（学問）」と「行（実践）」の要素をもつ諸科目の学びを通じて、現代社会の直面する諸課題に向き合う「知恵」、及び生きとし生けるものへの「慈悲」をそなえた人材の育成を目的とする。

■対象学生
2024年度以降入学生（ウェルビーイング学部を除く。）

■申し込みについて
申し込みは不要。武蔵野INITIALの科目の中から、卒業時までに所定の要件を充足した学生に、「コース修了証」を発行する。

■コース認定の要件について
卒業までに副専攻（仏教プラクティスコース)の認定に必要な武蔵野INITIAL必修2科目(4単位)、選択必修科目計8単位以上（各科目グループから1単位以上）を修得し、合計12単位以上を修得した場合、コース修了認定を行う。認定者に対して、大学より「コース修了証書」を発行する。

■卒業所要単位上の位置づけについて
卒業要件上の必修2科目を除き、「自由選択科目（所要単位を超える武蔵野INITIAL科目）」として算定される。

■履修者の人数制限について
（１）各クラスの定員を超過する応募があった場合、人数制限を実施する場合がある。
（２）人数制限の結果、履修を許可されなかった場合、次年度以降に履修登録する機会がある。

科目及び単位数 -2024年度以降入学生-

科目名	開講学年	単位数		科目グループ	修了要件	備考
		必修	選択必修*1			
【建学科目】						
仏教（生き方を考える）基礎	1	2		武蔵野INITIAL必修科目群	全科目を修得すること。	
仏教（生き方を考える）発展	3	2				
仏教幸福論	2		2	[A]仏教思想・仏教文化系科目群	[A]仏教思想・仏教文化系科目群、[B]実践（学外学修）系科目群より各1単位以上、計8単位以上を修得すること。	
仏教（自己を見つめる）	2		2			
共生の原理（仏教縁起論）	2		2			
現代社会と仏教	3		2			
仏教カンファ	3		2			
仏教総合	3		2			
【フィールド・スタディーズ】*2,*3						
フィールド・スタディーズ発展2A	2		1	[B]実践（学外学修）系科目群		プログラム名：仏教と実践
フィールド・スタディーズ発展2B	2		2			プログラム名：仏教を学び、仏教に学ぶ
フィールド・スタディーズ発展3A	3		1			プログラム名：仏教をたずねる

*1副専攻(仏教プラクティスコース)認定のための選択必修科目です。卒業所要単位上の必修・選択区分については各学科の開講表をご確認ください。

*2「フィールド・スタディーズ発展」の履修登録方法については、3月中旬頃に学外学修推進センター事務課よりMUSCATで案内があるので、必ず確認すること。

*3「フィールド・スタディーズ発展」のプログラム名は変更になる場合があるため、プログラム名は学外学修推進センター事務課のMUSCAT案内で確認すること。